

安全安心社会の可能性

～温暖化に備える新しい技術と政策～

一般公開：参加無料

2011年9月16日（金） 13:00～15:20

茨城大学 水戸キャンパス 人文学部講義棟 10番教室

■主旨

地球温暖化に対する気候変動緩和策として温室効果ガスの削減の取り組みが国際社会で議論されてはいるものの、温暖化の進行を完全に抑制することはできない。最近全国各地で、時間雨量100ミリを超えるようなゲリラ豪雨が発生し、洪水被害や土砂災害をもたらす一方で、年平均降雨量が減少し、渇水被害をもたらすなど極端現象が激化し頻発化する傾向にある。温暖化による影響は、水に限らず、大気・森林・農産物・水産資源など資源・エネルギーをめぐるさまざまな分野において顕著になりつつある。このように気候変動適応策の推進がまったなしの状態にあるにもかかわらず、その取り組みを推進する動きはまだ鈍い。技術は、こうした地球温暖化のように徐々に進むようリスクに対して被害の影響を最小化するだけでなく、新しい社会構造・システム・政策のあり方を誘導していく重い責任を担っている。

本シンポジウムは、地球温暖化の影響予測、影響緩和・適応策の研究・技術開発・政策立案に取り組んでいる産学官の第一線の方々に多様な角度から意見を述べていただき、一般の市民を含むシンポジウム参加者と意見交換することで、気候変動への対応を推進することを目的として開催する。

◆一般公開シンポジウム パネルディスカッション

◆進行：井上智夫（国土交通省 水管理・国土保全局水利技術調整官）

◆パネラー・話題提供：

○温暖化とともに生きる安全安心社会

三村信男 茨城大学 広域水圏環境科学教育研究センター 教授

○巨大災害への対処・計画外力を超える外力への取り組み

山田 正 中央大学 理工学部都市環境学科 教授

○電力供給危機・需要削減への取り組み

杉山大志 (財)電力中央研究所 社会経済研究所 上席研究員

○省エネ社会の実現のための新技術 有機ハイドライドを使った蓄電機能の充実

青木純一 (株)日立製作所 ディフェンスシステム社 主管

○保水セラミックスによる都市浸水緩和・ヒートアイランド抑制

今井茂雄 (株)LIXIL 総合研究所企画推進室

水戸地区(人文学部, 教育学部, 理学部, 図書館, 事務局等)配置図



主催：土木学会（担当：地球環境委員会）、共催：茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）

問合先：土木学会 事務局研究事業課、行事担当：研究事業課 佐藤 宛 TEL：03-3355-3559(直通)